

家庭教育学級 だより創刊号

皆さん、こんにちは！教育委員会生涯学習推進課で家庭教育学級を担当しています秋山と小竹です。平成26年度の家庭教育学級は幼稚園・小・中学校合わせて167学級が活動をスタート！！皆さんの活動を少しずつご紹介していきたいと思っております♪

中) 三角山小学校「親と子の楽しいお片付け」住育と利き脳 ～講師:スマートライフ・オーガナイザー 田川 瑞枝さん



子どもの「利き脳」を知ることで、その子に合った片付け方法を見つけられるかも！

みなさんの感想等

- ・「住育」が子どもの心と体の発達に与える影響について学び、どのように子どもへアドバイス等をすべきか学習できました。
- ・「衣食住」の「住」環境は私たちにとって大切な事柄であるにも関わらず、特に習う機会がないまま大人になった人が多い。子どもが片付けない！狭い！などと嘆く前に、子どもが片付けしやすい環境を整えてあげる事からまず取り組みたいです。



単に、子どもが片づけを身に付けるにはどうすればよいか、という学習ではなく、心と脳のかかわりから人(親と子ども)の行動パターンを理解するとともに、親子の思考パターンの組み合わせによってコミュニケーションのとり方が異なってくる内容でした。各家庭でこの学習を活かし、その結果を学び合うとより学習内容が深まると思います。

その子その子で一番適した片付け方法があるってわかっただけで、「何回言ったら片付けられるのー！(怒)」と言う回数が減るかも！その子の特性を生かしながら声かけが出来るといいですね♪次回、学級生が集まった際に各家庭で実践した結果などを話し合えたら面白いですね。



西) 発寒小学校「コーチング講座」～講師:コーチングプラス代表 石谷 二美枝 さん



ヒーローインタビューを実践！話を聞いてあげる側、話す側になってその時の印象を伝えあいます。

みなさんの感想等

- ・話を聞く態度によって全然印象が違うということを体験できました。
- ・「6歳児の視界メガネ」をかけてみて、子どもの視野はすごく狭いことに驚きました。しっかり子どもの視野に入って声をかけようと思います。
- ・子育てで上手くいっていることは？と聞かれ、なかなか思い浮かびませんでした。他のママの良い所を聞くと、「そうそう！それは私も同じ！」と気づくことができました。

忙しいどうしても何かやりながら子どもの話を聞くことがありますが、人間は視覚からの情報が50%以上を占めるそうです。ちょっと手を止めて子どもの顔を見て話を聞いてあげることで「ちゃんと受け止めてもらえた」と子どもが感じるようです。



東) 明園小学校「教育費講座」～講師:ファイナンシャルプランナー 志村 圭太 さん



子どもが成長すると共にかかる教育費について、実際に子どもの年齢を記入しシュミレーションしました。

みなさんの感想等

- ・教育費について実際にいつ・どのくらい必要なのか等を深く考えたことがなかったので、今回知ることが出来てよかったです。
- ・教育費を貯める前に、まずは子どもと将来の夢や希望の職業についてじっくり話し合ってみようと思いました。
- ・親として、その夢に対してどのようなサポートが必要か、教育費だけではなく経験話をするなどして子どもと関わっていききたいと思いました。

いつ・どのくらいのお金がかかるのか、いつが貯め時なのかを学んだ後は、子どもの毎日の生活や学習面について、親としてどう声をかけていくべきか等、学級生同士で話し合う機会があるとさらにいいですね。



1階に素敵な手作りポスターが貼ってありました！

報告書の書き方アドバイス♪

5月～8月まで提出していただいた報告書の例をいくつか紹介します(文章を多少編集しています)2学期以降の活動の際の参考にいただければと思います。

事例1:講演会形式「アートセラピー」など

氏名	学年	性別	所属	担当	活動名
山田 太郎	小学3年	男	札幌市立南小学校	山田 太郎	アートセラピー

報告例:
子どもの絵から、その時の精神状態や成長度合いを分析、アドバイスをいただき、子どもとの関わり方を学びました。

子どもとの関わり方について、学んだ内容をもう少し詳しく書いてください。

修正後:
親が絵を描き、親のタイプが分かる心理テストを行い、子どもとの相性の話があった。その後、子どもの絵を見て、その時の精神状態や成長度合いを分析し、その状態にあったアドバイスをいただいた。親が理解できない子どもの行動も、親子のタイプやリズムが違うので、見守ってあげてほしい。低学年の反抗期の男の子には、子ども扱いしないこと、中学年の女の子には、一緒に女子力を上げるようにしてあげること等、子どもとの関わり方を学びました。

すごくわかりやすくなりましたね!

事例2:講演会形式「給食試食会」など

報告例:
給食について、①給食の歴史②献立について③調理の流れ④フードリサイクル・すききらい克服法について⑤日常の働きかけと心がけ⑥食育の効果

学習した流れや内容だけではなく、子どもや家庭に関わる内容について詳しく書いてください。

修正後:
◆日常の働きかけと心がけ(・子どもと一緒に種から育てて収穫体験や調理体験をする・食事中は小言は言わず、一緒に食べる・好きなものに嫌いなものを足し、焦らず、休まず、一口から食べさせる・体を動かし、空腹体験をさせる・週に1~2回の実践でも良いなど)
◆食育の効果(生活のリズムの3つの柱の食事、運動、睡眠が整う・調理の手伝いから家族の一員としての役割を自覚できる・心の状態が変わり安定する)

事例3:座談会形式「高校見学」など

報告例:
高校見学後の進路説明会(各学校の先生よりお話)

親としての心構えなど、家庭に関わることを詳しく書いてください。



修正後:
高等学校の先生から、独自の教育プログラム、教材・資料の他、特徴を活かした学科コースや学習への取り組み方等の説明を受け、その内容を基に学級生と意見交換を行った。進路や将来の目標を自ら見出していく方法など、子どもの関心をえられる学習内容だったので、家庭での会話のきっかけの一つになった。
親が進路を考える時、目先の高校入学の事についてとらわれがちになるが、今回の高校見学で、各高校のカリキュラムの特徴を知り、その後の進路(大学・専門学校などへの進学や就職先の選択)に必要な高校での多様化した学習の様子や子どもたちに求められる資質や能力の関係など、親として子どもに寄り添う気持ちで支援していくことの大切さを学び合った。

事例4:座談会形式「救急救命講習」など

報告例:
救急救命士よりAEDの使い方を学び、命の大切さについて話し合った。

実習や見学会と合わせて行う学習会は、子育てにどう活かすか等、振り返りの学習も合わせて行ってください。



修正後:
子どもの体調の急変時にどのように対応するべきか、実技とともに学んだ。救急車が来るまでの心肺蘇生などの対処をすることが大事であることを学んだ。その後、学級生で、子どもたちが事故に遭わないようにするために親が注意すべきこと(プール、川などの水難事故・公園、家庭での事故について)を話し合い、実際のケガなどの体験談から、どんな状況で事故に遭いやすいか、再認識した。

教育委員会からのお知らせ

今後の予定

- ・11月6日(木)親育ち応援団座談会(予定)※広報さっぽろ10月号をご覧ください
- ・11月末~12月中旬 家庭教育学級情報交換会(予定)
(エルプラザ・ちえりあ・南区民センター・厚別区民センター等)
※今年は「ちょっと気になる講師のミニ講座体験付」を開催予定です!

・来年2月初旬 親育ち応援団講演会(予定)※広報さっぽろ1月号をご覧ください

【重要】必修学習は各回が終わった1週間以内に報告書を提出してください!

家庭教育学級だより次回は「秋号」(10月頃)です。お楽しみに♪

この創刊号は、HPにも掲載しています。

札幌市家庭教育学級

検索

